

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名  その他河川 東江の川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象  砂防 構造物基礎

ボーリング名	Bor-5	調査位置	広島県呉市川尻町板休地内	北緯	34° 14' 49.8715"
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所	調査期間	令和5年 6月 20日 ~ 令和5年 6月 22日	東経	132° 40' 46.2827"
調査業者名		主任技師		現代理人	
コ定者		ア定者		ボーリング責任者	
孔口標高	T. P. 256.52m	角		方位	
地盤勾配		使用機種	試錐機 東邦D0	エンジン	ヤンマー-NFD-12
総削孔長	7.00m	ポンプ	東邦BG-3		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試験採取番号	室内位置試験	削孔月日	
												深度-N値図		N値	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量				自沈時の貫入量
1	254.72	1.80	粘土混じり礫質砂	茶褐色	rd1				新第四紀	粘土分が15%程度混じる細～中砂が主体。径5～50mm程度の亜角～亜円礫が不規則に混入。深度0.70～1.00m間、径1～3cm程度の流紋岩岩片混入。表層0.10mまで木根混じる表土。		1.15	2	3	7	300	1.15	P5-1	○	6/20	
2			玉石混じり砂礫	茶灰色	rd5				新第四紀	径5～50mm程度の亜角～亜円礫と中～粗砂からなる砂礫主体。径10～50cm程度のコア状の粗粒硬質玉石が不規則に混入。全体的に細粒分少量混入。部分的に基質の砂に径1～3cm程度の硬質岩片混入。深度3.30m付近全漏水。深度4.50～5.00m、深度5.60～5.90m間、亀裂がない新鮮硬質な玉石混入。深度6.50m以深、コアは短棒状で採取されるが全体的に細目状の割れ目が発達し、割れ目は粘土質で充填。割れ目自体は風化変質が進み、軟質化しているが、風化変質を受けていない岩片は硬質。		1.45	15	35	50	150	150	1.45	P5-2	○	
3												2.30	50	30	50	30	2.30	P5-3	○		
4												3.15	50	20	50	20	3.15	P5-4	○	6/21	
5												4.10	5	11	12	28	300	4.10	P5-5	○	
6												5.15	8	13	29	50	5.15	P5-6	○		
7	249.52	7.00										6.44	貫入不能	50	0	6.44			6/22		